

事務事業名	グリーン・ツーリズム事業	整理番号	41102-000
所管	農林課 農政スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	平成13年度～平成年度	根拠法令・要綱等	御殿場市グリーン・ツーリズム推進協議会設置運営要領
基本計画における位置付け	基本政策	4-1 魅力ある農林業の振興	関連政策
	政策	4-1-1 農業の振興	

事務事業の内容

目的 (何のために)	都市部住民や市民に農林業に対する興味を持っていただき、その交流を介して農家の経営向上を図る。
対象 (誰・何を)	都市部及び市内住民で農林業体験に興味や意欲を持っている者
手段 (どのようなやり方で)	市ホームページ・広報誌・パンフレット等により、事業のPRを行い協議会与農家が連携し、農林業体験を実施する。
成果 (どのような状態にしたいか)	地域にある農林業資源の見直し、再構築をするために首都圏に近い地理的条件を生かし、都市部住民との農林業体験を通じ交流を深めるとともに、地域農業環境の活性化及び経済的波及効果を図る。
事務事業の背景・住民の意向	都市部住民にとっては自然や文化との触れ合いを通じて、癒しの時間を持つことができる。従来の観光とは一味違った農業体験として、グリーン・ツーリズム事業は、全国的に広がりを見せている。
見直し改善の経過	平成18年度に御殿場市グリーン・ツーリズム推進協議会の中に、事業推進部会(森と農の体験塾)を設置し、2つの体験イベントを企画、実施した。稲作体験を腰の腰商店街と合同で実施した。

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)												
平成16年度	10事業 458人	<table border="1"> <caption>投入コスト(千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>直接経費(上段)</th> <th>人件費(下段)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>~1000</td> <td>~800</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>~800</td> <td>~800</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>~800</td> <td>~800</td> </tr> </tbody> </table>	年度	直接経費(上段)	人件費(下段)	16年度	~1000	~800	17年度	~800	~800	18年度	~800	~800
年度	直接経費(上段)		人件費(下段)											
16年度	~1000		~800											
17年度	~800	~800												
18年度	~800	~800												
平成17年度	12事業 314人													
平成18年度	10事業 357人													

評価指標

参加者対前年比(%)	参加者1人当りのコスト(円)	事業数																														
<table border="1"> <caption>参加者対前年比(%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対前年比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>~80</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>~70</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>~110</td> </tr> <tr> <td>H19目標</td> <td>~110</td> </tr> </tbody> </table>	年度	対前年比(%)	H16	~80	H17	~70	H18	~110	H19目標	~110	<table border="1"> <caption>参加者1人当りのコスト(円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>コスト(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>~2150</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>~2550</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>~2450</td> </tr> <tr> <td>H20目標</td> <td>~2450</td> </tr> </tbody> </table>	年度	コスト(円)	H16	~2150	H17	~2550	H18	~2450	H20目標	~2450	<table border="1"> <caption>事業数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H21目標</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	年度	事業数	H16	10	H17	12	H18	10	H21目標	10
年度	対前年比(%)																															
H16	~80																															
H17	~70																															
H18	~110																															
H19目標	~110																															
年度	コスト(円)																															
H16	~2150																															
H17	~2550																															
H18	~2450																															
H20目標	~2450																															
年度	事業数																															
H16	10																															
H17	12																															
H18	10																															
H21目標	10																															

事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)	コメント	今後の方向性									
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">観点別評価</td> <td>必要性</td> <td rowspan="3"> 本事業を通じて、農業の大切さなどの理解、農産物の販路拡大や市内の観光資源、文化、自然の活用等に期待が持てる。今後、農家や推進団体が主体となった事業展開に移行することにより、事業の効果が向上する。 </td> <td rowspan="3">今後の方向性</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> </tr> <tr> <td>一次評価</td> <td>B</td> <td>継続</td> </tr> </table>	観点別評価	必要性	本事業を通じて、農業の大切さなどの理解、農産物の販路拡大や市内の観光資源、文化、自然の活用等に期待が持てる。今後、農家や推進団体が主体となった事業展開に移行することにより、事業の効果が向上する。	今後の方向性	有効性	効率性	一次評価	B	継続		
観点別評価		必要性			本事業を通じて、農業の大切さなどの理解、農産物の販路拡大や市内の観光資源、文化、自然の活用等に期待が持てる。今後、農家や推進団体が主体となった事業展開に移行することにより、事業の効果が向上する。	今後の方向性					
		有効性									
	効率性										
一次評価	B	継続									
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">二次評価(行政評価委員会の評価)</td> <td>コメント</td> <td>今後の方向性</td> </tr> <tr> <td> 参加者も横ばい、民間主導にシフトする方策を検討されたい。 </td> <td>手段改善</td> </tr> <tr> <td>二次評価</td> <td>C</td> <td></td> </tr> </table>	二次評価(行政評価委員会の評価)	コメント	今後の方向性	参加者も横ばい、民間主導にシフトする方策を検討されたい。	手段改善	二次評価	C				
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	今後の方向性								
	参加者も横ばい、民間主導にシフトする方策を検討されたい。	手段改善									
二次評価	C										

改革プラン

平成19年度からの対応	PR方法の検討(都市部の学校を通じたPRなど) 新たなリピーターの募集 新たな体験メニューの開拓と事業内容の実施 インストラクター組織の確立
平成20年度以降の対応	〃
改革により予想される成果	参加者の増加及び幅広い年齢層の参加者が期待できる。 小学生と保護者などの参加により、農林業に対する理解が期待できる。 民営のインストラクターが主体となり実施されれば事業費の削減ができる。